

緩和ケア支援体制の取組み（案）

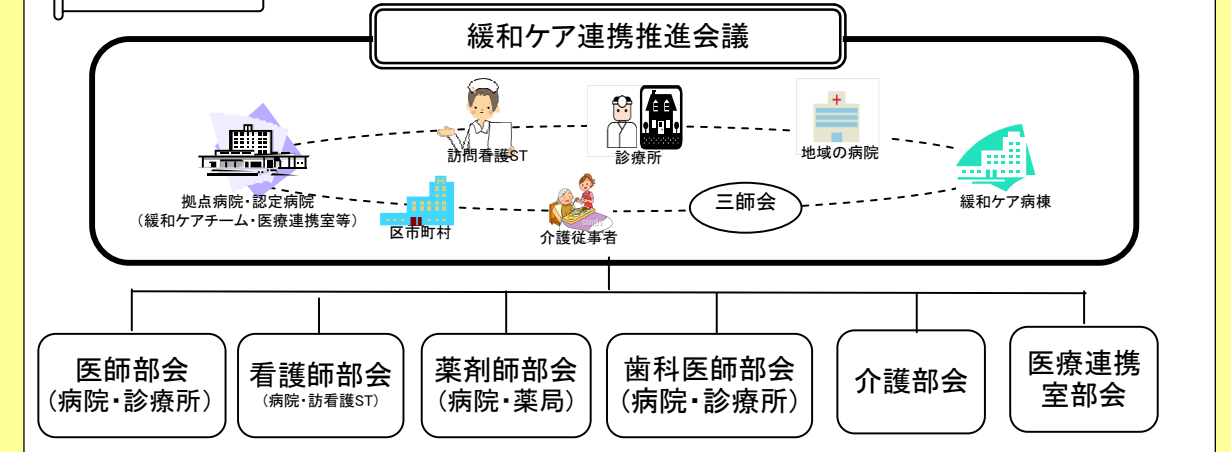
緩和ケア連携推進会議(仮称)

地域拠点病院が中心となり、地域拠点病院が担当する当該2次医療圏に研修会の企画・実施や医療従事者に対する相談支援、多職種・同職種の連携構築に向けた検討等を行う場を設け、地域の医療機関や関係団体等の協力を得て、役割分担をしながら、地域の緩和ケアの水準向上に努める。

委員（案）

- ・拠点病院（緩和ケアチーム、医療連携室、退院支援看護師、MSW等）
 - ・認定病院（緩和ケアチーム、医療連携室、退院支援看護師、MSW等）
 - ・在宅緩和ケアを実施している診療所
 - ・在宅緩和ケアを実施している訪問看護ステーション
 - ・地域の病院（緩和ケアを実施しており、がんの在宅療養患者の後方支援を行える病院（在宅療養支援病院等））
- ・緩和ケア病棟
 - ・地区の医師会、歯科医師会、薬剤師会
 - ・介護従事者（ケアマネージャ、地域包括支援センター等）
 - ・区市町村（在宅療養支援窓口等）

イメージ図



取組内容（案）

- ① 地域における緩和ケアのレベルアップに向けた取組み
 - * 患者が病院から在宅まで切れ目なく緩和ケアを受けるためには、地域における緩和ケアのレベルアップに取り組む必要がある。
そこで、上記委員を中心として、研修会や症例検討会を企画し、地区の医師会、歯科医師会、薬剤師会等関係団体の協力を得ながら、計画的に実施することで、地域全体の緩和ケア水準の向上を図る。
 - * 研修会や症例検討会を通じ、顔の見える関係を構築し、連携上の問題や共通認識を持つ機会を設ける。
- ② 緩和ケアに関する医療資源の把握
 - * 地域にどのような機能をもった医療資源が存在し、どのような役割分担や連携を行うことが可能であるかという情報を具体的に把握するため、地域の関係者が協力し、地域連携に必要な情報の項目出しを行う。
 - * 具体的情報を収集するとともに、医療マップやリストを作成するなどし、当該地域の関係施設間で緩和ケアに関する医療資源についての情報の共有化を図っていく。
- ③ 医療従事者に対する緩和ケアの相談支援
 - * あらゆる相談に対応できるよう、拠点病院等を窓口し、上記委員がチームとなり、相談内容に応じて連携・協力して対応できる体制を検討する。
- ④ 多職種・同職種の連携構築に向けた検討
 - * 限りある資源を有効活用し、身体的・精神的負担を軽減するために、地域の実情に応じた多職種・同職種のネットワーク構築の検討を行う。
- ⑤ がんの在宅療養患者の後方支援協力体制
 - * がん患者の急変時の緊急一時入院や、レスパイト対応のための一時入院を行う際のルールづくりを行う。
 - * がん患者の急変時の緊急一時入院受入や、レスパイト対応のための一時入院受入に協力する病院をリスト化するとともに、地域において情報を共有し、リストをもとに地域の医療機関間で協力し、がん患者の緊急一時入院受入を行う。

取組例

- ・上記委員を中心に、多職種による症例検討会を企画・実施
- ・職種別に部会を設置し、地区の医師会、歯科医師会、薬剤師会等関係団体の協力を得ながら、職種別の研修会・症例検討会を企画・実施
- ・在宅医療従事者が中心となり、病院と診療所・訪問看護ステーション・薬局等の相互研修会の企画・実施（病院医療従事者の在宅療養・在宅医療に関する理解を深める）

取組例

地域の医療資源情報を収集するとともに、医療マップやリストを作成するなどし、地域で情報を共有する。

【把握する医療資源(例)】

- ・緩和ケア提供医療機関（病院（緩和ケアチーム、緩和ケア外来、緩和ケア病棟）、診療所、訪問ST等）
- ・緩和ケア専門医
- ・取り扱いオピオイド製剤や訪問服薬指導が可能な薬局
- ・在宅で口腔ケア等が対応可能な歯科診療所
- ・往診可能な専門科診療所
- ・患者会・ボランティア 等

取組例

- ・メーリングリストを活用するなどし、相談内容に応じて上記委員と協力し、緩和ケアに関する相談に対応できる体制の検討を行う。

取組例

- ・診療所と訪問看護ステーション等との連携
- ・診療所同士のネットワーク、訪問看護ステーション同士のネットワーク、薬局同士のネットワーク

取組例

- ・ルールづくりを行う（受入依頼方法、搬送方法、入院日数、情報共有ツール、満床時の対応 等）
- ・がんの在宅療養患者の緊急入院等に協力する病院をリスト化し、地域の医療機関で情報を共有
- ・リストをもとに、医療機関間で緊急時等一時入院受入を行う。